

[施業研究室]B. 森林の測定に関する研究 : 3. 固定標準地による北海道演習林カラマツ幼令林の成長推移と被害状況の調査

青木, 尊重
九州大学農学部附属演習林 : 助教授

柿原, 道喜
九州大学農学部附属演習林 : 助手

矢野, 虎雄
九州大学農学部附属演習林 : 助教授

今田, 盛生

他

<https://doi.org/10.15017/1456134>

出版情報 : 演習林研究経過報告. 昭和38年度, pp. 32-34, 1964. 九州大学農学部附属演習林
バージョン :
権利関係 :

3. 固定標準地による北海道演習林カラマツ幼令林の成長推移と被害状況の調査

青木 尊重 柿原 道喜
矢野 虎雄 今田 盛生
中島 誠

1. はしがき

北海道の主要造林樹種であるカラマツは、北海道演習林においても主位を占め、その造林面積は年々増大の一途を辿っている。しかるに本演習林は創立以来日なお浅く、カラマツ植栽林の実態は十分に把握されていない。そこで、この問題を解決するため、昭和33年7月に、サンプリング調査によつて、造林木の成長推移ならびに被害状況の推定を行なつて若干の知見を得た。この調査のさい、1年生造林地より10個のプロットを選んで固定標準地を設定し(図参照)、連年、被害の発生状況ならびに樹高および板元直径の成長量を調査しているが、昭和38年度においては、11月中旬に本調査を実施した。

2. 結 果

5年間の調査結果をとりまとめた結果は、次表のとおりである。

カラマツスプロット調査成績表 (Area 0.05 ha)

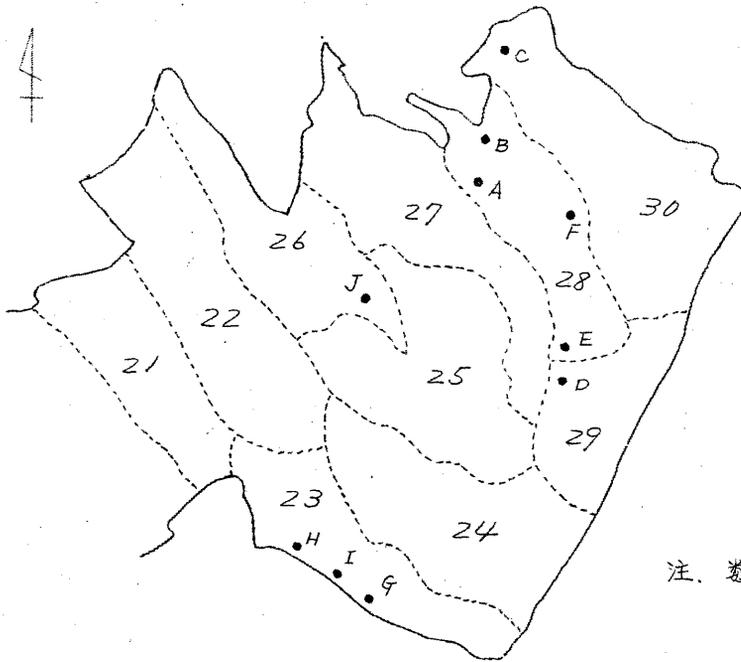
調査年 標準地	1958			1959			1960			1961			1962			1963		
	N	H	D	N	H	D	N	H	D	N	H	D	N	H	D	N	H	D
A	108	0.7	0.9	98	1.4	2.0	78	1.5	2.7	81	1.9	3.7	77	2.6	4.8	69	3.2	6.2
B	111	0.5	0.9	99	1.2	1.6	88	1.3	2.2	88	1.8	3.2	85	2.2	4.3	72	2.7	5.2
C	144	0.5	0.9	136	1.5	1.7	131	1.6	2.8	129	2.2	3.0	126	3.2	5.1	108	3.7	5.9
D	154	0.5	0.8	150	1.7	1.9	140	1.9	3.0	145	2.4	4.3	144	3.3	5.9	138	4.0	7.0
E	122	0.6	1.0	121	1.9	2.4	99	1.9	3.6	90	2.5	5.0	98	3.3	6.4	68	3.9	7.4
F	127	0.5	1.1	118	1.5	1.7	169	1.7	2.6	61	2.3	4.0	53	3.1	7.4	-	-	-
G	128	0.6	0.9	119	1.7	2.0	113	1.8	3.0	113	2.3	4.5	113	3.3	6.3	111	4.1	7.8
H	116	0.6	0.9	110	1.7	1.9	104	1.8	2.9	95	2.7	4.9	105	3.2	6.0	103	3.9	7.2
I	112	0.6	0.9	109	1.7	2.0	107	1.8	3.1	108	2.5	4.7	108	3.4	6.4	108	4.0	7.9
J	59	0.6	0.9	49	1.1	1.4	40	0.9	1.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平均	118	0.6	0.9	111	1.5	1.9	98	1.6	2.8	101	2.1	3.7	99	3.1	5.8	98	3.7	6.8

注 1) N: 本数 H: 平均樹高 D: 平均根元直径

2) F区、J区は被害激しく測定を中止した。

各種被害の発生状況、傾斜方位ならびに傾斜度による被害状況、被害種類別の成長状況等については、未だ結果を得るにいたっていない。

カラムツフロット位置図



C. 林業機械に関する研究

1. 急制動による集材架空線の衝突について

青木 尊重 中尾 博美

I. 目 的

林業における架空線集材法は、地形の許す限り、既に全国的に普及し、三年ほど前からは国有林に全幹集材法が採用され、急速に広まりつつある。斯様に搬出材の重量が大きくなるにつれ、搬出時、不測に